とちぎのボランティア･社会貢献活動や協働の取組みを応援する情報誌

ぽ･ぽ･ら magazine

2022 Winter

Vol. 35

特集　ぽぽら対談

つながって前へ新しい一歩を
～今こそNPOや市民の出番です～

◆協働ちょっといい話
　アドバイザーから学んだ協働のコツ

◆キラッとちぎ人
　あしかがいっしょに子育てガイド
　フォルクローレで街を元気に

◆ぽ・ぽ・ら広場　とちぎ協働推進大会

とちぎボランティアNPOセンター

つながって前へ新しい一歩を　～今こそNPOや市民の出番です～

ぽぽら対談

とちぎボランティアNPOセンターでは、今年度、「つながりの回復」をテーマに、各種相談や講座などの事業を実施しています。そこで、昨年度、つながり回復のための「リレー講座」講師を務められた、NPO法人トチギ環境未来基地理事長の塚本竜也さんに、この間、県内の市民活動にどのような変化があったのか、今何が必要なのか、将来の展望も含め、お話を伺いました。

赤羽幸雄　×　塚本竜也

とちぎボランティアNPOセンター「ぽ・ぽ・ら」センター長。地元那須烏山市での自治会活動も行っている。

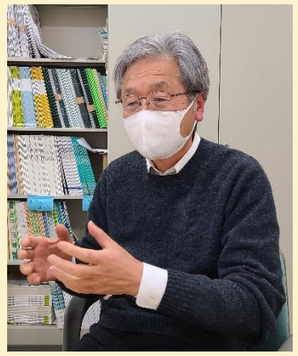
NPO法人トチギ環境未来基地理事長。フクシマ環境未来基地と（一社）栃木県若年者支援機構の活動にも関わる。

●長引くコロナ禍、NPO等の活動は戻ってきたか

赤羽　現在もコロナ第8波で、感染者は減少していませんが、3年前とは異なり、各地で人々が動き出していますね。元気な人は活動を始めているので、当センターを訪れたり、発言も前向きですが、つながりが弱くなっている人については、見えにくい状況です。貴法人の活動は戻って来ましたか。

塚本　ボランティアの数が、少しずつ戻り始めています。ただし、職員を雇用して仕事としてNPOを運営している団体と、皆の想いでつながっているものの、活動が止まり回復が難しくなっている団体とでは、状況が異なりますね。一度止まったものを再開するために、もう一度大きなエネルギーを持てるかどうかが課題だと思います。赤羽さんは自治会長も務められているそうですが、状況はいかがですか。

赤羽　私の属する自治会は、基本的に全員参加ですが、高齢者が多く、リスクを避けることを優先するため、コロナ禍では、様々な行事を中止せざるを得ませんでした。その状態が長く続くと、人と人との関係が薄れていきますが、それではまずいという雰囲気になり、なんとか感染が影響しない範囲で再開しようという流れになりました。おそるおそる戻ってきている状況ですね。



●統一にこだわらず、多様性を許容する

塚本　コロナ前から、人のつながりやコミュニティの縮退があり、いろんな課題が見えていたと思いますが、決定的に違うのは、「コロナをどう捉えるのか」が人によって異なるという点です。例えば、イベントをやること自体には反対しなくても、「コロナなのにやるのか」という考えの人もいます。全員が納得して行うのが難しい時代に入ったと感じています。そういう時に、不必要な分断とか、対立みたいなものは避けたいですね。

　では、そういう中で、地域に根ざした活動をどう継続していくか。とても難しいですが、皆で良く話し合っていくしかないと思います。リスクを考えて実施しない判断もあれば、多少のリスクがあっても対策して実施するという判断もあり、その両方を認め、選択肢が増えたと包摂していくことが、市民活動の基盤を整理していくことになると思います。

赤羽　今回学んだことは、「統一にこだわらない」ということです。参加したい、したくない」と意見が割れた時に、無理に統一しないで良いと思います。団体により、知恵を使って、状況に応じて柔軟に対応する、柔らかい対応をしていかないといけない。そのために、話し合いをしていく能力が求められます。事業をやる、やらない」の判断も、「コロナ当初は漠然とした不安がありましたが、3年経って、感染がどういう状況か、リスクはあるか、安全対策は万全か、必要性は、緊急性はなど、理性をもって考えると「このリスクは避けられるよね」と変化したと思います。

●オンラインとの付き合い方

赤羽　話は変わりますが、今年度、当センターでもリアルで行う事業が復活しましたが、久しぶりに会場に人が集まると、事業説明の会議でも、なぜか場の雰囲気が生き生きとしました。一方で、オンラインセミナーなどでは、他県からの参加や日ごろなかなかお会いできない方の参加などもあり、新しい時代には、オンラインが必須だということも再認識しました。塚本さんは、オライン活用をどう捉えていますか。

塚本　当法人でも、「オンライン自然観察会」をやり、チャレンジとしては良かったのですが、五感を使うことについて、オンラインでは、視覚と聴覚しか動かないところが弱点だと感じました。特に、子どもはそれまでの経験が少ない分、「新しく触る、味わう」というような実体験を積むことが大切ですので、この場で何を経験させたいかによって、オンラインとリアルをうまく使い分けていく必要がありますね。

●市民活動の原点、「小さな活動」に光をあてる

塚本　コロナを経験して、「小さな活動」が、県内に無数にあることが大切だと思いました。続けていくエネルギーを継続させていくこと。小さな活動に光をあてることが、今とても大切なのではないかと思います。

赤羽　「小さな活動」ということに、とても共感しますね。団体の性格には、①小さな活動を大きく育てていくものと、②小さな活動のままで良いもの、二通りあると思います。3～4人が動くことがとても重要で、敷居の低い活動を、気の合う仲間とやっていく、それも凄く重要なつながりだと思います。「小さな活動運動」があっても良いなと思います。そういう活動も「良いことだよね」ということが広がって欲しいし、当センターも、そういう活動を応援したいと思います。

●ボランティアコーディネーションの原点

塚本　小さな活動のつながりの濃さに価値がありますね。例えば、「子ども食堂に月1回来る子どもがいる」というつながり。また、「近所の子ども5～6人の成長の過程を見ていく」つながり。小さいけれど、濃度が高いということの価値を提示していくことが大切ですね。今こそ、ボランティアコーディネーション能力の発揮どころだと思います。ボランティアしたい人のコーディネートは、基本的に個別対応です。その人が何をやりたいか、このテーマで今できることは何かをきちんと拾っていくこと。テーマに対する関心を持ち続けられるようにつなぐことが、ボランティアコーディネーションの原点だと思います。

●機会があれば人はつながる

塚本　小さな活動が良いというのは、機会があれば人はつながっていくと思うからです。ボランティア活動の活性化がつながりの回復へ、そして、新たなつながりを生むことにもなります。

赤羽　困りごとを自分ごととして真剣に取り組む人もいますが、きっかけは、誰かに誘われるというのが一番多いように思います。「協力する」から始まり、積極的に活動する」に変わっていきますから、活動を広げるために、誘ってみるというのも必要ですね。

●未来に向けて、NPO等の多様性を強くするために

赤羽　当センターは来年20周年を迎えますが、この間、地球環境の変化や経済の低迷など、社会情勢は著しく変化しました。NPO等に期待されるものも変わってきています。

塚本　NPO等の強味として優先順位をつけずに、多様性を認める」ことが、ますます重要になってくると思います。多様性を強くするために、小さな活動が沢山あるというのは、理想的な形ですね。

　SDGs時代におけるNPO等の役割については、まだ、コロナは終息していませんが、次に社会不安が出てきた時に、NPO等が賢く動けるよう、異なる分野の団体が一堂に会して、経過を振り返って、今後のことを話し合う場があると良いと思います。

　ぜひ、「ぽ・ぽ・ら」で機会を作っていただいて、皆で考えたいですね。

●問合せ：NPO法人トチギ環境未来基地　住所：〒321-4101　芳賀郡益子町大沢2584-1（明在庵内）　TEL：0285-81-5373

協働ちょっといい話

協働についてのシリーズ連載を振り返ります。

アドバイザーから学んだ協働のコツ

とちぎボランティアNPOセンターぽ・ぽ・ら
コーディネートリーダー
町田　英俊

本連載「協働ちょっといい話」では、24号から前号まで、「とちぎ協働アドバイザー」の皆様に「協働」についての思いや取組みなどを伺ってきました。今号では、それぞれのメッセージを振り返りながら、協働について再考していこうと思います。

◆ 協働は信頼関係にあり

初回の安藤氏は、協働の取組は意思決定も含めて複雑な工程が必要となるが、これらを解決する原動力は「人とのつながり」であると教えてくれた。「解決につながる人とのつながり」とは何なのか？それは、「共に活動する人同士の信頼」が重要なのだろう。

加納氏も自身の事例として、企業との協働のきっかけは、「ボランティアで関わっていただいた方がたまたま企業の方だった。」と話された。そこには「共に活動するボランティアの法人に対する信頼」があるからこそ、ボランティアの背景にある資源を活かし協働へとつながったといえる。

小針氏が語る「組織としての信頼関係はもとより、『互いの組織にこの人たちがいるから上手くいっている』という個々人に対する感謝」との言葉は、団体が活動する上で、常に念頭におくことが重要だろう。

◆ 多様な活動でつながる

協働には、多様な主体が関わることが大切と言われている。しかし、意識した巻き込みを行わないと、「活動者」とはならず、協働につながることは難しい。

大木本氏には、NPOインターンシップとして、「学生活動者」と「NPO」とのつながり作りについてお話しいただいた。「時間はかかる。だがこの種まきに、学生の想いと団体の想い、地域の想いが重なったとき、活動が広がることもある。」とある。一人ひとりの活動者とつながる」努力が必要なのだろう。

土崎氏は、協働について、目的ではなく「方法」でつながることを教えてくれた。「特定の活動やシーンのみの参加」など、ハードルを下げる工夫をしながら続けていくという、互いに無理のない形での参画方法を考えることも重要である。

◆ 応援し応援される関係

多様な主体とつながり、協働の関係となるには、どのような要素が必要なのだろうか？岩井氏は、協働には「①自身（自団体）が欲しい（目指す）景色があること、②相手にその景色が欲しいと思う提案ができること、③実現に向けた意思や強み、実行力を高めるための努力を日常的に続けること」が必要だと語っている。

また、濱野氏は「協働とは応援し応援される関係」とも語っている。

ありたい未来に向けて、多様に活動する多様な主体の中で、共に応援し、応援される関係を育む。その最適解が、協働の「まちづくり」なのだと思う。

◆ 協働のまちづくり

中村氏や大波氏は、「安心して暮らす」「地域の人と自然とともにあるまちづくり」という欲しい未来の景色を伝えてくれた。

「信頼できる関係」の先には安心があり、安心して暮らすまちには、ウェルビーイングと呼ばれるような愛情をもって大切にできるものが、町中に生まれてくると感じた。

◆ まとめ

協働とは、日々の活動を通して多様な参加者を生み、継続し信頼関係を築くことが大切である。そして、互いの情報開示を進め、多岐にわたる思いや、目指す未来を共有し、活動していくことで、互いに支え合うまちづくりが可能になるのだろう。

私も、初めの一歩は小さくても、その活動が「ある」ということを大切に、その芽を育み、「協働のあるこのまちに住んで良かった」と感じるまちづくりに取り組んでいきたい。

最後に、本連載にご協力いただいた「とちぎ協働アドバイザー」の皆様に改めて御礼を申し上げます。

「情報誌ぽ・ぽ・ら」掲載号と協働アドバイザー一覧
ぽ・ぽ・らホームページからバックナンバーも確認できます

号数	タイトル	協働アドバイザー
24	人と人が紡ぐ協働	宇都宮市まちづくりセンター 安藤　正知　氏
25	地域とも企業とも自然体で	NPO法人くまの木里の暮らし 加納　麻紀子　氏
26	欲しい未来の景色が、社会に新しい「解」を創る	NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク 岩井　俊宗　氏
27	安心して暮らすために	NPO法人ハイジ 中村　絹江　氏
28	未来の可能性を広げる種まきが協働につながる	とちぎコミュニティ基金 大木本　舞　氏
31	地域の人と自然とともにあるまちづくり	合同会社山々と星々 大波　龍郷　氏
32	「共に生きる」に楽しく参加 ～やり方でつながる協働～	一般社団法人とちぎ市民協働研究会 土崎　雄佑　氏
33	信頼関係から生まれた連携・協働 ～おやま防災プラスα～	小山市市民活動センター 小針　協子　氏
34	「受援力」でつながる協働	一般社団法人えんがお 濱野　将行　氏

協働アドバイザーの肩書は掲載時点です。

キラっとちぎ人

県内で活躍する人やNPOの取組みを紹介します。

～子育て中のあなたへ～ あしかがいっしょに子育てガイド

ボランティア団体「あしかが子育て応援ネット」

『もし、あなたがこまったときはこのガイドブックを開いてみてください。掲載されている支援先の方も、近所のおじさんおばさん方も、たくさんの人たちがあなたの子育てに寄り添いたい、支えたい、と待っています。』

この書き出しで始まる「あしかが子育て応援ガイド」は、毎年「乳幼児編」「学童期編」「思春期編」の3種類が作製され、それぞれの年齢に応じた保護者に渡されます。その内容は、病院や学校、遊び場、保育園・幼稚園等の紹介はもとより、様々な面で子育ての悩みを助けてくれる制度やアドバイスが子育て当事者目線で興味を引くように編集されています。取材担当者も、自身の遠い昔を懐かしみ、「あの頃これがあればな～。」とつい読み込んでしまう、子育て世代にとって親しみやすく頼もしいガイドブックである。2005年に1回のみの予定で発行しましたが、反響の大きさとフレッシュな情報提供の必要性を感じたことから、2年目からボランティア団体「あしかが子育て応援ネット」が引き継ぎ、毎年更新を重ねながら今日まで18年間発行を続けています。

この活動の特徴は、主旨に賛同した多くの個人や法人、団体等の寄附で費用を捻出し、編集作成はボランティアが、配布は行政機関が担うという三位一体の活動だということです。特に寄附金は、医療関係・幼稚園・保育園・企業などへの声かけから、仲間への連鎖を生み、活動継続の原動力になっています。そこには、「必要なことは自分たちでやる。」という足利の気風もあるとのこと。保護者のみでなく、掲載団体・機関・支援者のつながり強化にも役立っています。

情熱を持って活動を続けるメンバーに、熱いエールを送ります。

18年にわたる冊子を前にしたボランティアの皆さん

乳幼児期編より

●問合せ：あしかが子育て応援ネット　住所：〒326-0337　足利市島田町717-2　TEL：090-4948-4797

とちぎにJフォルクローレを広める会 代表　鈴木　隆夫氏

フォルクローレで街を元気に

フォルクローレとは南米の地域生活に根ざした民族音楽のことです。サイモン&ガーファンクルによってカバーされた「コンドルは飛んでいく」はフォルクローレの代表曲です。鈴木さんは学生時代にフォルクローレに魅了され、音楽活動を開始しました。ケーナ、チャランゴ等数多くの楽器の演奏を習得し複数のグループに所属し活動しています。

表題の「Jフォルクローレ」の「J」とは、日本人が演奏する和製のフォルクローレ音楽という意味を込めました。

音楽のおもしろさは、友だちが友だちを呼びネットワークが広がるところと考えており、自身でも200～300人程度とつながりがあるとのことです。

毎月、オリオン通りの「ACプラザ」において音楽祭「演」を主催しており、時節柄、演奏活動がままならない団体の支援として、演奏の場の提供をしています。「演」の開催で最も重視することは、「商店街を元気にすること」と熱く鈴木さんは話します。宇都宮市が推進する「ジャズの街」とコラボしながら、まちおこしにも積極的に参加し、まずは宇都宮にフォルクローレ普及活動の核を作り、他の地域にも広めていくことを目指しています。今年4月に、関東ではアマチュア初となるフォルクローレフェスティバルを開催し、県内外から12グループが参加しました。

また、月1回デイサービス施設を訪問し、レクリエーション支援としてハーモニカなどで童謡や歌謡曲を演奏しています。利用者の笑顔から元気をもらい自らも楽しんでいます。最初に皆で合唱する時間を設けますがそれは嚥下障害の予防や、参加する楽しみを味わってほしいとの思いからです。東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」は震災時のことを忘れないために必ず演奏します。

鈴木さんの今後の目標は、学生を中心とした若い世代に、フォルクローレを引き継ぐことです。音楽を通じ、世代を超えてつながりを持つことで皆で街を元気にしていきたいという願いがあります。音楽に包まれ活気づく街の景色を皆で見てみたいですね。

フォルクローレグループ「インティ3」としてオリオン通りで演奏する鈴木さん

フォルクローレ楽器

↑
鈴木さんの演奏動画はこちらから

●問合せ：とちぎにJフォルクローレを広める会　住所：〒321-0621　那須烏山市中央3丁目1－7　TEL：090-5341-1523

とちぎ協働推進大会2022

ともに創る「活力あふれるとちぎの地域社会」

県内では、NPO・ボランティア団体や企業、大学、コミュニティ団体等、様々な主体が協働し、地域課題の解決に取り組んでいます。令和４(2022)年11月11日(金)、「とちぎ協働推進大会2022」が栃木県総合文化センターで開催され、NPOや地域団体、行政関係者らが協働による地域づくりや社会貢献活動について考えました。

輝く“とちぎ”づくり表彰

輝く“とちぎ”づくり表彰は、NPOやボランティア団体などが地域の課題を解決に向けて行う、栃木県内における優れた社会貢献活動を表彰するものです。

令和４（2022）年度から、協働による取組に加えて、ＮＰＯ等が単独で行う社会貢献活動も表彰の対象となり、創意性、成果、発展性、波及性、連携度（協働の取組の場合）等の観点から総合的な評価が行われ、第６回目となる今回は、最優秀賞１取組１団体、優秀賞３取組８団体が表彰されました。

最優秀賞（１取組1団体）

渡良瀬川源流域の森再生プロジェクト

【取組団体】特定非営利活動法人足尾に緑を育てる会

【取組】
足尾銅山の鉱毒により荒廃した足尾の山への植樹や生育環境の整備・維持を行っており、小・中学生や植樹希望者への植樹体験の提供や環境問題を考えるシンポジウムなどを実施している。

【成果】
荒廃した山に木を植えることを通して、災害防止に貢献しただけでなく、緑化以外の身近な環境問題についても考えるきっかけを作ることができた。

優秀賞（３取組８団体）

SDGsでこどもを応援

【取組団体】
特定非営利活動法人栃木県こども応援なないろ・一般社団法人栃木県若年者支援機構・特定非営利活動法人フードバンクうつのみや・タキヤ会議・宇都宮海星女子学院中学校・高等学校

【取組】
貧困や家庭環境により困難を抱えたこどもを対象とした、衣食に関する支援事業(朝ごはんカフェ・おやつカフェなど)を地域や関係機関と連携し、継続的に実施している。

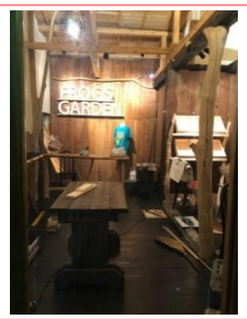
【成果】
企業から寄附された食料を活用し、こどもの食の貧困を一時的に解消でき、企業のフードロスも削減することができた。

大柿地区の豊かな自然を守り・活かし次世代が活躍出来る場所の創出

【取組団体】
特定非営利活動法人自然史データバンクアニマnet

【取組】
野生鳥獣の被害が多く、地域住民の高齢化が進む大柿地区で、地域の学生や不登校児童とともに、里山の整備や自然保護活動を実施し、伐採木を利用した空き家のリノベーション事業を実施している。

【成果】
里山整備により野生鳥獣被害を低下させた。また、空き家のリノベーションを行うとともに、移住希望者の受け入れを行い、空き家問題の一部解決につなぐことができた。



ラジオで発信！多文化共生のまちづくり

【取組団体】
TABUWATA（タブワタ）・株式会社宇都宮コミュニティメディア

【取組】
宇都宮コミュニティFM「ミヤラジ」で、外国人住民が主体的に関わる多言語放送を実施し、防災情報等を発信することで、安心して暮らすことができるよう支援している。

【成果】
災害時に備えた日ごろからの多言語放送の必要性等に対する理解を深めてもらうことができ、誰もが暮らしやすい、多文化共生の地域づくりに貢献した。

記念講演

支え合う地域づくり～協働から共創へ～

記念講演では、特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク代表理事の岩井俊宗さんが登壇し、「支え合う地域づくり－協働から共創へ－」をテーマに、「地域づくりの第一歩は住民の理想や願いをしっかりとキャッチすること。地域の人からＳＯＳを発信してもらうために、助ける人が助けてもらう人にもなるという発想が必要です。そして、助けてほしい人が何を望んでＳＯＳを出しているのか、その思いや背景をよく聞き取って、支援内容を決めることが重要です。」と話しました。

そして、県からの委託事業として、同法人が中心となり、地域の福祉関係者や自治会等とともに、宇都宮市西地区で取り組んでいる「ＮＰＯを活用した地域の助け合い活動」の状況について、地域住民や学生、子どもたちが高齢者宅の草むしりや落ち葉掃きなどのちょっとした困り事の「お手伝い」をする様子が報告されました。

岩井さんは、「多世代が関わり合い、お年寄りは孤立感なく安心して暮らし、子どもたちは自分の街に貢献ができたという思い出が持てるような地域づくりを目指していきたい。」と話し、さらなる取組への意欲を語りました。

特定非営利活動法人
とちぎユースサポーターズネットワーク
代表理事　岩井　俊宗　氏

栃木県からのお知らせ

令和４年度災害ボランティアセミナーin栃木参加者募集中！

栃木県では災害ボランティア活動の促進を図るため災害ボランティアセミナーを開催します。

【日時】　令和５（2023）年１月19日（木）　13：30～16：00
【場所】　とちぎ生きがいづくりセンター講堂（とちぎ健康の森内）（栃木県宇都宮市駒生町3337-1）
【対象】　災害やボランティアに興味のある方　　【参加費】　無料
【内容】　講演①「避難所でどう過ごす？～避難所運営への関わり方について～」
講師：NPO法人イコールネット仙台 代表理事　宗方恵美子氏
講演②「私にもできる！災害ボランティア」
講師：宇都宮市社会福祉協議会　八木　茂氏

【申込締切】令和5(2023)年1月12日(木)
申込方法など詳しいことは、ホームページをご覧ください。

災害ボランティアセミナーin栃木　検索

「ぽ・ぽ・ら」からのお知らせ

労働者協同組合法が施行されました

令和4年10月1日に「労働者協同組合法」が施行されました。多様な働き方を実現しつつ、地域の課題に取り組むための新たな組織として「労働者協同組合」を法制化したものです。
これにより、多様な就労の機会が創出されるとともに、地域における多様な需要に応じた事業の実施が促進され、ひいては持続可能で活力ある地域社会の実現に資するものと考えられます。

【概要】
労働者協同組合は、「組合員が出資し、それぞれの意見を反映して組合の事業が行われ、組合員自らが事業に従事すること」を基本原理とする組織であって、地域に貢献し、地域課題を解決することを目指したものであり、出資配当を認めない非営利の法人である。
労働者協同組合制度の概要として、
① 組合の基本原理に基づき、組合員は、加入に際し出資をし、組合の事業に従事する者とすること
② 出資配当は認めず、剰余金の配当は、従事分量によること
③ 組合は、組合員と労働契約を締結すること
④ そのほか、理事・監事等の役員、総会等の機関、行政庁による監督
などを法律上規定している。

詳しくは　厚生労働省相談窓口：0120-237-297、 栃木県産業労働観光部労働政策課：028-623-3217
または「ぽ・ぽ・ら」までお問合せください。

～「ぽ・ぽ・ら」基本情報～

開館時間　火～土曜日　9：00～17：00
休 館 日　日曜日・月曜日・祝日・年末年始
駐 車 場　付帯駐車場７台(障がい者等優先)
県庁地下駐車場(２時間まで無料/除く県庁閉館日)
駐車券を事務室までお持ちください。
管理運営団体　NPO法人とちぎ協働デザインリーグ

住　　所　〒320-0032
栃木県宇都宮市昭和2丁目2番7号
ＴＥＬ　028-623-3455　FAX 028-623-3465
Mail　popola@tochigi-vnpo.net
HP　https://www.tochigi-vnpo.net/

■編集後記■表紙写真について
「下野ふくべ細工ランタン祭り実行委員会」により、石橋にぎわい広場で初めてランタン祭りが開催されました。小規模特認校の３年生たちが育てたふくべが、次の３年生の手により綺麗なランタンとなりました。編集スタッフも仕事終わりにお邪魔しましたが、夜には灯りがともされ、地域の人々が集まる温かいイベントでした。